

2026年度 中間集会



2026年6月28日(日) 9:30 ~ 16:15

秋田大学教育文化学部 3号館60周年記念ホール(秋田県秋田市)

プログラム

9:30~9:45

オープニングセッション

9:45~11:45

準備委員会企画シンポジウム

「人口減少時代における特別支援教育の課題—秋田発・病弱教育の実践から考える—」

少子高齢化・人口減少が進行する秋田県が直面する教育課題は、秋田だけのものではありません。教員不足、専門家の偏在、広域をカバーする支援体制の構築—これらは今後、日本全体の特別支援教育が直面する課題の「先取り」です。秋田は、その課題に向き合ってきた実践の蓄積もあります。病弱教育サポートセンター☆きらりを拠点とした広域支援体制、ICTを活用した地域連携、医療との協働—広い地域に暮らす特別なニーズを有する子どもの学びをいかに豊かに保障するかを問い続けてきた取り組みが続いています。人口減少は「危機」であると同時に、従来の枠組みを超えた新しい教育のあり方を模索する「機会」でもあります。秋田県の実践をふまえながら、これからの特別支援教育の可能性を全国の参加者とともに考えます。

11:45~12:15

中高生招待企画「Project for Next SNE Researcher」説明・交流

本企画では、障害、病気、貧困、不登校、戦争など、人々が直面する様々な困難と、それでも生き・学び・育つことを支える教育や福祉の営みに関心のある中学生・高校生を中間集会に無料でご招待します。大学の研究者や学校・医療・福祉の実践者と直接交流しながら、社会の課題と向き合う研究・実践の現場を体感できる機会です。当日は全プログラムに参加いただけるほか、ランチ時には交流会(20分程度)も予定しています。参加証も発行します。(参加費無料・部分参加可)

12:30~13:30

ランチセッション:若手チャレンジ研究会

学部・特別専攻科・教職大学院・修士課程の学生が、卒業論文・修士論文等の研究デザインについて発表し、各発表の内容・方法に詳しいコメントーターより直接助言を受ける場です。完成した研究ではなく、進行中の研究デザインを持ち寄り、専門家との対話を通じて研究を深めていくことを趣旨としています。今回は不登校支援・主権者教育・カナダのインクルーシブ教育をテーマとする学部生1名・大学院生2名が発表予定です。発表者にとっても、聴衆にとっても、研究が育っていく過程とともに考える場となります。

13:30~16:00

課題研究「『戦争・核・平和』と特別ニーズ教育」

ロシアによるウクライナ侵攻・ガザにおける人道危機等、現在進行形の戦争・武力紛争は、子どもの生命・住居・食料・医療・学校教育・発達機会を奪います。障害・疾病等の特別なニーズを有する子どもへの影響は一層深刻です。しかし「戦争・核・平和と特別ニーズ教育」の検討はほとんど未着手の課題です。第二次世界大戦後81年を経てもなお全く未解決の課題としてありつづける「戦争・核・平和」問題に、特別ニーズ教育の視点から正面から向き合うべく、学会では課題研究テーマとして本テーマを設定しました。中間集会では、「戦争・核・平和」と特別ニーズ教育研究の視点と方法の整理とともに、核実験被害を受けた地域における障害・疾病を有する子どもの発達困難という具体的事例を報告し、議論を深めます。本課題研究は第32回研究大会(長崎大学・鎮西学院大学、2026年10月)・『SNEジャーナル』第32巻特集と連動しています。

16:00~16:15

クロージングセッション

参加費・申込

会員・非会員 1,500円

若手チャレンジ研究会 発表者 1,500円

学部学生・高校生・中学生 無料

申込締切は2026年6月19日(金)です。右のQRコードや学会ウェブサイトよりPeatixにてお申込みください。当日参加はありません。

Peatix⇒<https://snechukanakita2026.peatix.com>

集会や中高生申込の詳細⇒<https://www.sne-japan.net/interim-meeting/>



[アクセス] 新幹線:東京駅→秋田駅 秋田新幹線「こまち」(約4時間)。秋田駅から徒歩約15分、バス利用で約8分。航空機:羽田空港→秋田空港 JAL・ANA(約1時間) / 大阪(伊丹)空港→秋田空港 JAL・ANA(約1時間15分)。秋田空港からリムジンバスでJR秋田駅まで約40分です。

[注意事項]・大学構内に学外者向けの駐車場がございませんので、公共交通機関をご利用ください。・当日は大学生協食堂の営業がございません。会場周辺のコンビニ等をご利用頂くか、あらかじめご準備の上お越しください。